

H25. 6. 8

困った行動への対応



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。医学博士。近著「平穀死・10の条件」「胃ろう」という選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。54歳。

Dr.

和の
町医者日記

在宅医療に従事していると、何百軒かに一軒の割合でいわゆる「ごみ屋敷」に遭遇します。ところ狭しとモノがあふれ、地層のように堆積した上を歩くことになります。

何十四のペットが生息する「動物屋敷」、趣味で収集したお宝に埋もれている「お宝屋敷」もあります。本人にとってはお宝でも、第三者にとつては「ごみの山」。その主人を調べてみると、かなりの確率で認知症であることは、経験ある在宅スタッフなら知つ

ごみ屋敷と火の不始末

の本質は不安でしたよね。そういうえば中年になると水を飲んでも太るという人がいます。これは僕の遺伝子のスイッチが入るからです。わずかなエネルギーでも脂肪として蓄えようという体質に勝手に変わるので。

戦争体験世代の人は「僕約」が身についているので、どうしても捨てられないのです。そうはいっても「やっぱり捨てられない」という人

何十四のペットが生息する「動物屋敷」、趣味で収集したお宝に埋もれている「お宝屋敷」もあります。本人にとってはお宝でも、第三者にとつては「ごみの山」。その主人を調べてみると、かなりの確率で認知症であることは、経験ある在宅スタッフなら知つ

ては「なぜガラクタを集めるのか?」と質問しました。すると「もったいない」「持っていると落ち着くから」とのこと。そう認知症

は、もう認知症が始まっています。

「断捨離」という言葉があります。たしかに、捨てるとは意外と難しい。年を取れば取るほど、荷物が増えているのが普通の人間でしよう。

駅でもうつたティッシュペーパーを「もったいない」とため込んでしまった私も「ごみ屋敷」予備軍だと自己診断していま

るのかもしれません。

開業当初、訪問1時間後に

自宅から出火し、死亡した在宅患者がいました。たばこの

火の不始末が原因でした。たばこを禁止しても解決には

なりません。ニコチン依存症

や介護者はどう処理すればいいのでしょうか? 他人にとつては「ごみでも、本人にとつてはあくまでお宝」無理に片づけると、不信感を招くばかりで、逆効果です。本人に分

からないように、少しづつ片づければトラブルにはなりま

せん。とにかく一気に片づけようとしていることです。そんな作業をボランティアで受け負っているケアマネジャー

には頭が上がりません。火をつけてあげて自分の目の前で吸ってもらい、吸い終わ

りを確認するようにしたほうがいいかもしれません。

づければトラブルにはなります。これは僕の遺伝子のスイッチが入るからです。わずかなエネルギーでも脂肪として蓄えようという体質に勝手に変わるので。

炊事を禁止するのも考えものです。火の出ないIH(電磁誘導加熱)式調理器に取り換えて、火災報知機を設置

したりします。風呂の空

火の不始末も近所の人にとっては大変気になります。火は大丈夫?と心配になります。認知症の人

は、火の存在 자체を簡単に忘



断捨離

部屋の整理整頓とともに生活に調和

をもたらすとする生活術。

捨てる

ことで、モ

ノへの執着から解放され、身軽で快適な人生を手に入

れようという考え方。

単なる片づけとは一線を引く。